



狸塚長良神社内にある井河大明神の墓

若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話しをお届けします。
お年寄りたちの貴重な体験談 〈第十四回〉
あすへひとこと



井河大明神の墓の由来

現在、狸塚東部の水田地帯を流れている逆川は、その昔下休泊堀と呼び、うずら新田から狸塚にかけて地域の、水田の用水堀であった。そして、多々良沼からの流水を調整するため、土手を築いてため池とし、一番樋という水門造った。

その樋は三本樋で、三尺・九尺の大きな樋門だったので、それを全部開くと狸塚地域の水田の水は十分間に合うのであった。

ところがその後、洪水のため大輪村(現明和町)地内で利根川の堤防が決壊し、付近の水田は二尺くらい置土されてしまった。

そのため、下休泊堀の水利が思うようにならなくなってしまうので、大泉の古海付近で

利根川の水を引き入れ、用水とするようになった。

一方、一番樋の水門を一本樋にしてしまったので、狸塚地区の水田では、用水が不足するようになり、収穫も減ってしまったので、農民は非常に困るようになった。

そんな時、館林藩の検見役だった井河様が、この窮状を見かねて、水田の年貢を軽減して、畑作と同じにしてくれたので、狸塚の農民は大いに助かり、井河様に心から感謝していた。



狸塚東部を流れる逆川(下休泊堀)



狸塚長良神社の鳥居

しかし、このことが藩の知るところとなり、井河様は気の毒にも処刑されてしまった。

そこで、狸塚村民一同が相談して、狸塚長良神社の鳥居の西側、小高い築山の中央に、井河大明神と刻んだ墓石を建て、尊敬と感謝の誠を表したのである。

邑楽町教育委員会では、その傍らに、井河大明神の碑石と記した柱を建て、「文化財を大切にしましょう」と呼びかけている。

高齢者の語り第一集

「あすへひとこと(昭和六一年二月一日発行)」より

「井河大明神の墓の由来」
故・浦野貞さん
(本郷江原・二九区)



暗雲を背に
金色に輝く
(藤川付近)



Photo 松村光明(記録ボランティア)

ひとりと From editors

▼今年の4月から広報おうらでJOYを担当することになりました(藤)です。1年ぶりに広報おうらの編集に携わることにしました。ということで、一眼レフカメラと広報編集用パソコンを1年ぶりに触ることになりましたが、数年たったかのような不思議な感覚に…。▼昨年、わが家の節電対策にと緑のカーテンを始めました。庭に植えたゴーヤがすくすくと育ち、日差しを遮るのはもちろん毎日ゴーヤを収穫することができました。ゴーヤは、体にもいいし節電対策にもなるので、今年も苗を植えました。今年もゴーヤを食べて夏を乗り切りたいと思います。皆さんは、この夏どんな節電対策をしますか。(藤)